

幼稚園教育

感性豊かな子にするための援助の工夫

—身近な素材を使った造形活動を通して—

浦添市立港川幼稚園教諭

平 良 順 子

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究の仮説	1
III	研究構想図	2
IV	研究内容	3
1	テーマにせまるために	3
(1)	テーマ分析	3
(2)	幼児理解	4
(3)	教師の援助	4
(4)	環境構成	4
2	表現活動を楽しむ子ども	5
3	造形あそびに関する家庭での実態調査	6
4	造形年間指導計画	9
V	保育実践	14
1	実践事例	14
(1)	幼児の感動体験を通しての表現の工夫	14
2	保育実践	19
(1)	検証授業指導案	19
VI	研究のまとめと今後の課題	20
1	研究のまとめ	20
2	今後の課題	20

《参考文献》

感性豊かな子にするための援助の工夫

—身近な素材を使った造形活動を通して—

I テーマ設定の理由

幼児期は、生涯にわたる感性や表現力の基礎を培う時期であるといわれている。幼稚園教育要領「表現」の中に「豊かな感性や自己を表現する意欲は、幼児期に自然などの身近な環境と十分かかわることの中で美しいものや、心を動かす出来事に出会うことや、自分の感情や体験を豊かに表現する充実感を味わうことによって育てられる。」と示されている。幼児は、本来身近にあるいろいろな素材をつかって描いたり、作ったりすることが好きでよく遊んでいる。その経験を繰り返すことによって表現意欲が育ち満足感、充実感を味わうことができると考える。

しかし、子どもをとりまく環境として遊びの中には、テレビゲーム、既成の玩具等が多く、自ら素材を探し選んで遊ぶことが少なくなってきたのではないだろうか。園の実態として、幼児の中には、造形遊びが好きで、感じたこと思ったことを素直に描いたり、いろいろな素材を使って工夫したりして遊んでいる子もいるが、中には、生活経験の少ない子や、表現しようと思ってもうまく表現できず途中で投げ出してしまう子もいる。

そのような幼児に対して

- (1) 表現意欲が出せるような素材を準備していただろうか。
- (2) 「もっとかきたい」「つくりたい」「遊びたい」という思いを「もう時間だから」と押さえていたのではないか。
- (3) 興味、関心をもてるような環境作りがなされていたかどうか。

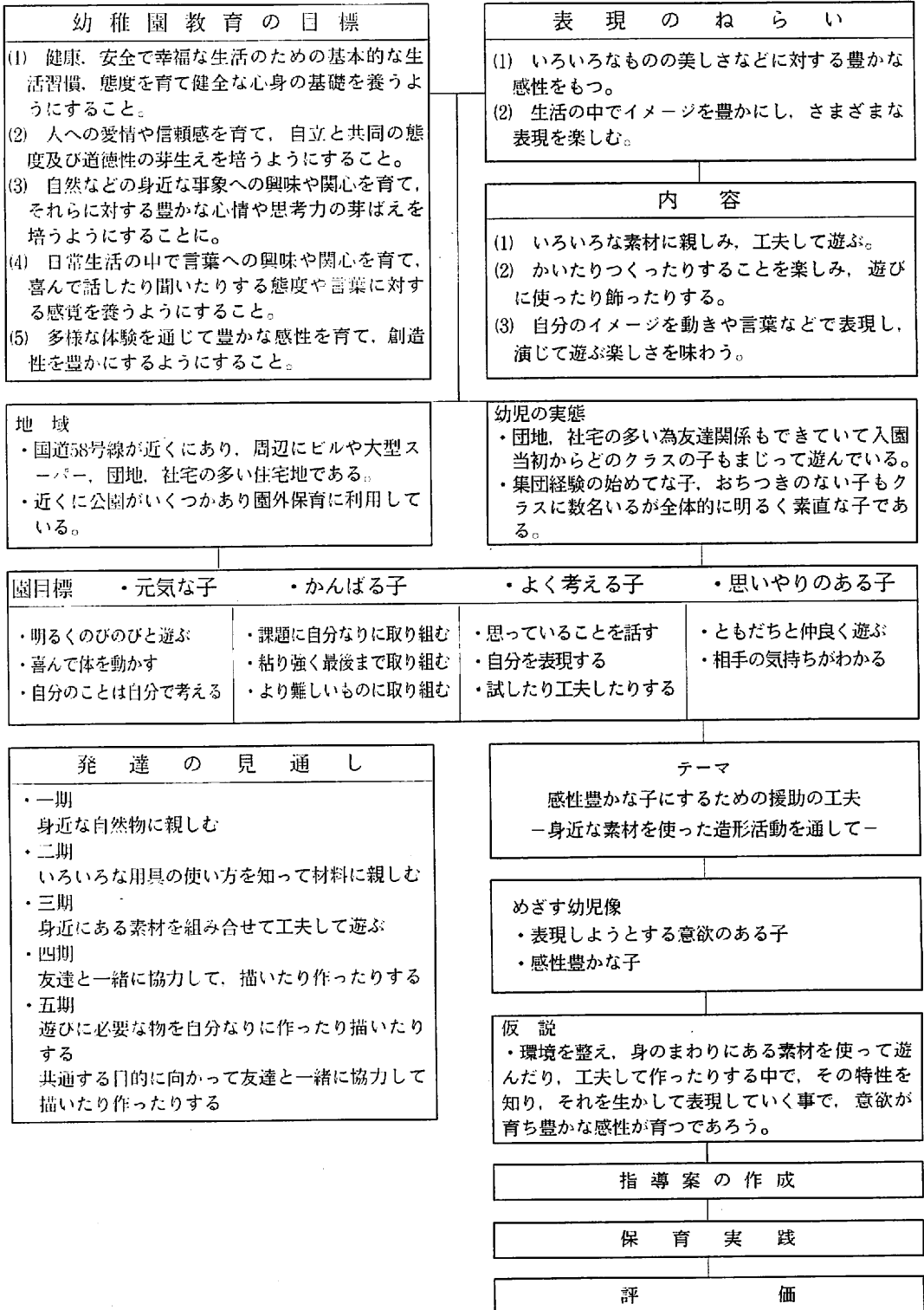
以上の事から、幼児の内面にある思いを引き出せずに「させた」「させられた」という結果になっていたのではないだろうかと考えられる。

このことから「子どもたちのやりたい事はなんだろう。」「身近な素材を使って遊ぶなかで一人一人が作ることの楽しさ」「次はこれで〇〇して遊ぼう」と、意欲的に取り組むようになるには、どのような援助の工夫をしていけばよいだろうかと考え本テーマを設定した。

II 仮 説

表現しやすい環境を整え、身のまわりにある素材を使って遊んだり、遊びに使うものを工夫し作ったりする中で、その特性を知り、それをいかして表現していくことで、意欲が育ち、豊かな感性が育つであろう。

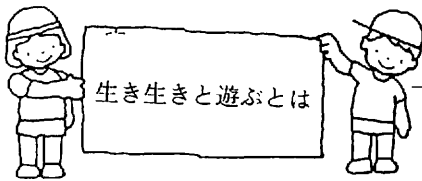
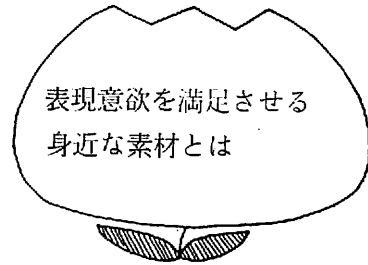
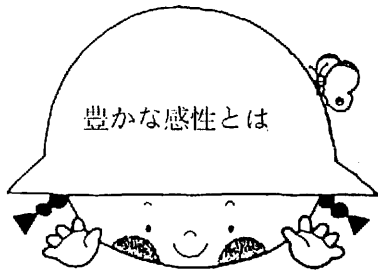
III 研究構想図



IV 研究内容

1 テーマにせまるために

(1) テーマ分析



- ・幼児期に自然などの身近な環境と十分にかかわる中で美しいものや心を動かす出来事などに会うことで、自分の感情や体験を豊かに表現する充実感を味わうことによって育てられる。

- ・幼児の身近にいつも素材があり、発達を見通しながら幼児の興味を誘発し幼児自身の表現意欲を満足できるもの
- ・幼児にふれる自然物（砂 土 水 木の実 葉 貝殻）人工物（空き箱 新聞紙 チラシ ビニール袋 ダンボール）など
- ・興味をもって遊びに使えるもの
- ・手軽に入手しやすく、年齢に適した技術で組み合わせのできるもの
- ・身近ないろいろな物を見立てたり、工夫したりして思いのままに描いたり作ったりするもの

- ・幼稚園生活の中で、幼児が自分から喜びを感じて遊びに取り組み、自分のやりたい事が出来ているという充実感、満足感を得る状態をいう。

- (1) 幼児が自分のしていることを認められていると感じたとき
- (2) 友達との関係が安定しているとき
- (3) 自分のやりたいものに挑戦し、試行したり工夫しながら最後まで取り組むとき

- ・幼児が自分でやろうとする方向に向かって、積極的に活動を展開していけるよう見守り、励ましたり、手を添えたりしながら、自分でやりとげたという満足感を味わえるよう援助していくこと

- ・ 幼児を理解する
- ・ 信頼関係を築く
- ・ 環境構成をする
- ・ 直接的な援助をする

(2) 幼児を理解する。

- ・目の前にいる一人一人の幼児と直接触れ合いながら、幼児の行動や表情から、その幼児のよさや、可能性、発達する姿、心の動きなどを受け止め、理解しようと努力することが大切である。
- ・日常生活の中で、遊びへの取り組み（どんなもので、何に興味を持ち、どんな様子で、だれと遊んでいるのか）をよく観察し、その行動に共感できることが大切である。
- ・幼児の発見、工夫、意欲をとらえることも大切である。

(3) 教師の援助

① 信頼関係を築く

幼児は教師にいつも温かく見守られ受け入れられているという安心感が得られると、自分から周囲に働きかけ安定して遊びに取り組むようになる。

教師が幼児と一緒に過ごしながらか幼児の行動や発見、努力、工夫、感動などを温かく受け止めて共感したり励ましたりして、心を通わせることで育てられていく。

② 直接的な援助

幼児の展開する活動を大切に育て保育を進める上で、個々の幼児が着実に発達するために必要な助言や指示を行なうことが大切である。又、教師が一方的に知識や技能を授けるのではなく、あくまでも幼児の必要感に応じて、幼児が自分で気付いたり、繰り返してやってみる中で獲得していけるよう教師が働きかけていくことが大切である。

③ 教師の働きかけの一例

「見守る」 「共感する」 「環境をつくる」 「友達の遊びに目をむけさせる」
「ヒント、アイデアを与える」などがある。

(4) 環境構成

幼児の生活の流れや発達に即して具体的なねらいや内容を設定し、それにふさわしい環境を作り出していくことである。

① 環境構成を考える視点

- ・発達の時期に即した環境 ……一人一人の遊びや教師との触れ合いを通して生活に親しみ安定する。
- ・興味や欲求に即した環境 ……周囲の人や物への興味・関心が広がり生活の仕方がわかり、友達とイメージを伝えあい、遊びを楽しむ。
- ・生活の流れに即した環境 ……友達関係を深めながら、自己の力を十分に発揮して生活する。

環境は一度構成したら変えないという固定的なものではなく「環境は幼児の生活する姿や発想を大切に、つねに適切なものとなるようにすること」とあるように展開する活動に応じて幼児が必要な体験をしていけるよう再構成していくことが大切である

2 表現活動を楽しむ子ども

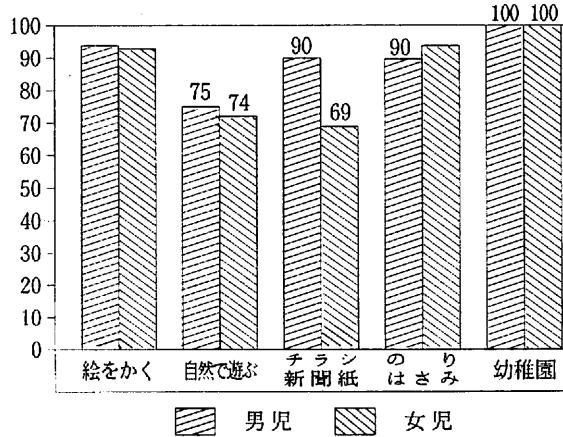
幼児の保育にあたって、最も基本的を考えなければならないことは、子どもの成長発達の実態に即して、適切な援助や指導をしていくことである。特に描いたり、作ったりする造形活動においては、子どもが頭の中で考えて表現しようとする内容が子どもの持っている表現の方法と手段によって外に表される活動であります。それだけに子どもの持っている精神的、あるいは知的な発達、身体的な成長発達などをよく見極めてそれに即するように考えていくことが重要である。



3 造形遊びに関する家庭での実態調査

平成6年11月 実施
 調査人員男児 40名
 女児 47名

- (1) 絵をかくことが好きですか。
 考察 ・男女共90%以上が絵をかくことが好きである。
 いいえが13%であるが、これは戸外で遊ぶことが好きなためだと思う。
- (2) 自然物(かいがら、はっぱ、木の実)などで遊べますか。
 考察 ・男女とも身近にある自然物をままごとなどに利用して遊んでいる。



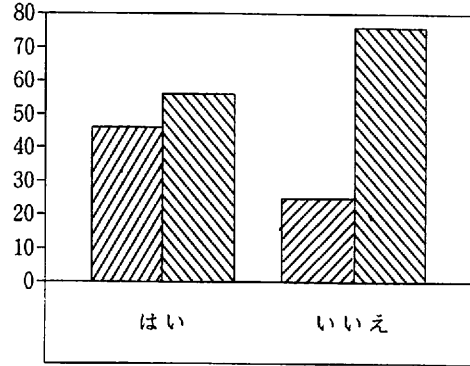
- (3) チラシ、新聞紙でよく遊べますか。
 考察 ・もっとも身近にある材料で大きさ、手触りなど子供たちが使いやすいためだと思う。
 ・全体の20%の子が「いいえ」と答えているが、これは作った経験がないか、又は、作ったけど他のものと比べて興味ももてず、「あまり作らなかった」と答えたのだと思う。
 ・女児は、男児より「はい」が少ないが、これは作るよりかくことの方が好きなためと思われる。
- (4) お子さんはのり、はさみの使い方は上手だと思いますか。
 考察 ・園、家庭でもよく使われているので、これからも安全な使い方を守らせていきたいと思う。
- (5) 幼稚園から持ってきた絵や作品に言葉かけをされていますか。
 考察 ・どの親も子供の作品をほめている。子供はほめられる事により自信をつけ「つぎもやろう」という気持ちが出てくる。
 ・「ただ上手だね」だけでなく「この所が上手ね」とか「むづかしかったところは」とか聞いてみるのも大切な事だと思う。
- (6) 幼稚園から持ってきた絵や作品をどうしていますか。

男児	保存する 75%	4~5日おいてすてる 25%	すてる 0%
女児	保存する 80%	4~5日おいてすてる 20%	すてる 0%

- 考察 ・75%以上の父母が幼稚園生活の記念として大切に保存している。
 ・すてるにしても、持ってきたその日でなくしばらくは飾ったり、遊んでから子どもにきいてすてている父母もいて子どもの、気持ちを大事にしていると思う。

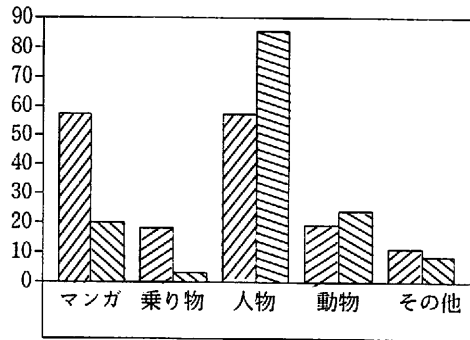
(7) かなづき、くぎを使って何か作ったことがありますか。

- 考察
- ・あぶない、まだ早いとおもい使わせてないかと思う。
 - ・最初は打ちやすいハッポースチロールなどに打ち、なれてきたら板に打ち、コリントゲームを作って遊べるようにしたい。



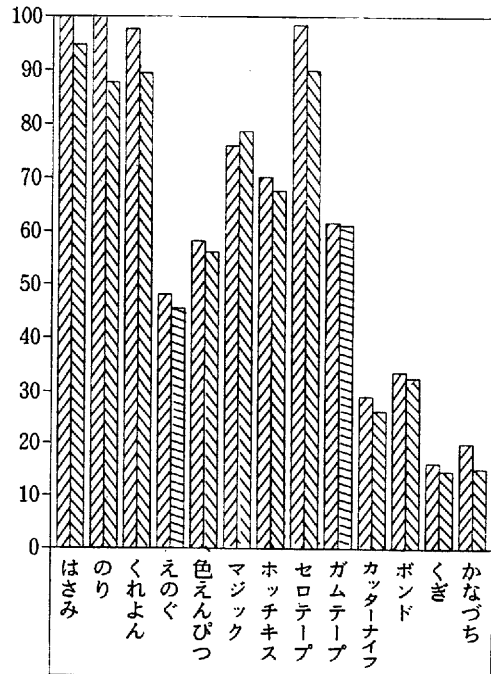
(8) お子さんが家でよくかく絵はどんな絵ですか。

- 考察
- ・男児58%はマンガや怪獣の絵をかいている。
 - ・女兒87%は人物や花をかいている。
 - ・全体的に男児は動きのあるものに興味を持ち、女兒は静かなものに興味を持っていることが考えられる。



(9) 家にある用品はどれですか。

- 考察
- ・家庭でも、はさみ、のり、セロテープは置かれており、自由に使えるようになっている。
 - また、くれよん、色鉛筆なども多くの子が持っており、好きな時にかけるよう父母が準備し与えていると思う。
 - ・えのぐ、くぎ、かなづちが少ないのは、汚れるので、あぶないと思われるが服装や場所を決めて遊ばせるとよいと思う。
 - ・いろいろな用具を使いこなせるということは、自分のイメージ、発想にもとづいて多様な活動ができるのでよいと思う。

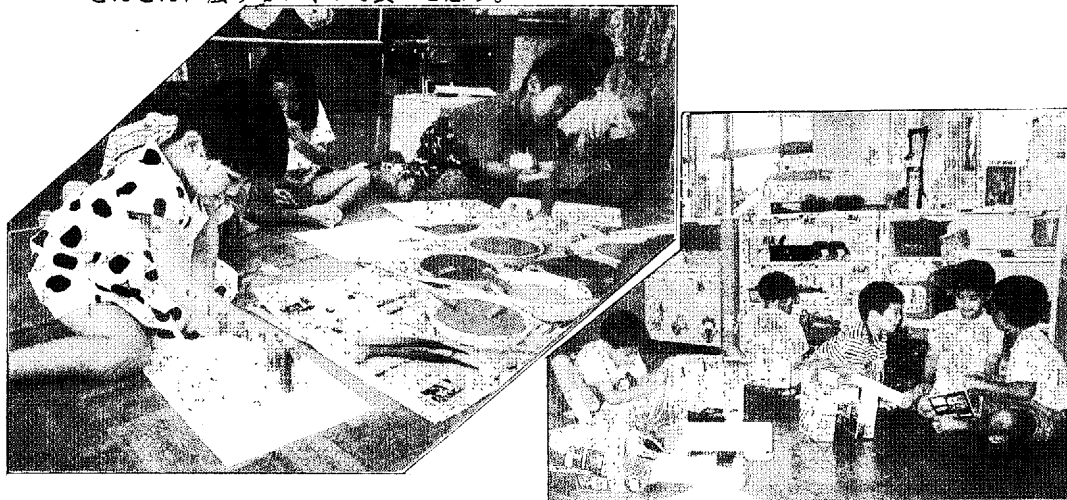


考察

- ・アンケートに対して90%の回答がみられ、幼稚園に、すなわち子どもの教育について熱意がみられた。
- ・園から持ち帰った作品、絵についてもほめて飾ったり、家で製作している時はヒントを与えたり、むずかしい所は一緒に作ったりしているなど父母の意識も高いと感じた。
- ・園でも、家庭でも廃品を使って作って遊んでいる事がわかりこれからはいろいろな素材を遊びのなかに活用していきたいと思う。

父母の感想（抜粋）

- ・製作に関してはよく親子でやったりしますが、でき上がった時は喜んでるので親としてもふれあいが持てて良いことだと思います。想像力、集中力がつくのでこれからも続けてほしいと思います。
- ・いろいろな物を作っている時、すごく目がかがやかせて一生けんめいに考えながら作っている姿が大好きで、アイデアを出した時それを完成させた時、成長の段階がわかります。保育園と違いずいぶん成長したと思います。
- ・描きたい時に書く、作りたい時、ひらめいた時、即使えるように我が家では、子どもの手の届く所にクレヨン、はさみ、のり、セロテープなどを置いています。作っているのを見ていいアイデアなどが、絵をみて色使いなどから子どもの精神状態などをみるようにしています。
- ・親が描いたり作ったりすることが苦手なので、園で作る楽しさをいろいろ覚えてくるので良いと思います。
- ・家の中がダンボールの箱、空き箱だらけになったりして足の踏み場もないくらい製作しますが1～3日ぐらいして本人に聞いて許可を得てから捨てています。いろいろ作るので大変楽しいし、ナイフ、はさみは親より上手です。
- ・楽しく絵をかいたり、作ることは子どもの感性とかを豊かにすると思うしアイデアなども、どんどん、広げていくので良いと思う。



4 造形年間指導計画

月	4月～5月	
期	1期	
子供の生活する姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 初めての集団生活でとまどいを見せる子、張り切り過ぎて落ち着かない子など個人差が著しい。 ○ 同じ保育園からの子や近所の子同士結び付きで遊んでいる子、反面友達がいないで一人で遊んでいる子も多い。 ○ 教師に声をかけてもらうことを待っている子、あるいは積極的に話しかけてくる子など、どの子も教師とのかかわりを期待している。 	
発達の過程	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新しい生活の始まり ○ 教師とのかかわりで安定する。 	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自由に表現できる喜びを味わう。 ○ 造形遊びをとおして、解放感を味わう。 ○ はさみ、のり、セロハンテープなどの基本的な使い方を押さえる。 	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自由に絵をかく。 ○ 粘土に親しみ感触を楽しむ。 ○ 紙を切ったり、ちぎったり、折ったり、まるめたりする。 ○ のりやはさみの使い方を知る。 	
主な遊び	<ul style="list-style-type: none"> ○ 好きな絵を書く（クレヨン、形や大きさの違う画用紙、方眼紙） <ul style="list-style-type: none"> *自由画 *ぬりえ *線遊び *フロッタージュ（こすりだし） ○ 砂、土、粘土で遊ぶ（砂場道具、水） <ul style="list-style-type: none"> *山づくり *トンネルづくり *あなほり *ままごとのごちそうづくり（だんご、ケーキ） 	
自然物	桑の実（ままごと、色水遊び） タンポポ（指輪、ままごと） シロツメ草（かんむり） アリアケカズラ（ままごと） ぶつそうげ（イヤリング）	
環境	教師の援助配慮	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個々の幼児とふれあい、保育者の愛情を感じとらせ、安心感を与える。 ○ 園生活の基礎づくりの時期なのでなんでも自分でやったり、言ったりできるよう認めたり励ましたりする。 ○ 遊びの中で集団生活をする上での基本的な生活習慣が身につけられるよう場を捉えて指導する。 ○ 一人一人の遊びを認め、それぞれ子の要求に応じてやり楽しい、もっと遊ぼうと意欲を持たせると共にたっぷり遊べる時間や場を確認する。
	物・場の配置	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭での遊びが延長できる親しみやすい遊具を準備する。 ○ 自分の好きな遊具や用具に十分かかわって遊べるように種類や数を配慮し同じ遊びに興味をもつ幼児同士が触れあうようにする。 ○ 知っている歌やお話しなどのテープを準備し設定しておく。 ○ 子供たちが出し入れできるよう用具の置場は、わかりやすく表示し、決められた場所へ後片付けができるようにする。

月	6月～7月	
期	2期	
子供の生活する姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達がやっていることに興味を持ち同じ事をやりたいという意欲を持って友達と遊びを進めている姿が見られる。 ○ 自己主張が強くなりぶつかり合いも多くなる。 ○ 集団生活に必要な基本的な生活習慣はほぼ自立してくるが、園生活になれるに従いルールになる子も見られる。 ○ 水をたっぷり使った遊びを好み、色水遊び、砂遊び等が盛んになる。一人一人が砂の感触を楽しみながら水と砂との関係や数量などの感覚を身につけていく。 ○ 先生や仲間と一緒に過ごす楽しさがわかり始める。 	
発達過程	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分と友達 気の合った友達とのかかわりで安定する時期。 	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな材料に親しむ。 ○ 体、全体を使って表す。 	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな用具の使い方を知る。 ○ いろいろな材料を組み合わせる。 	
主な遊び	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵の具で遊ぶ（絵の具、筆、季節の野菜、型おし用のいろいろな容器） <ul style="list-style-type: none"> *指絵の具 *スタンプ遊び *型おし *あわせ絵 *マーブリング ○ スクラッチ（ひっかき絵） ○ 色水遊び（草花、水性ペン、パーチメント紙） ○ しゃぼんだま遊び（石けん水、ストロー、竹筒、その他） ○ 空箱製作（空箱、ホッチキス、セロテープ、ガムテープ、マジック（油性）、糊、穴パンチ、ひも類） ○ 土山で遊ぶ（水入れ、スコップ） <ul style="list-style-type: none"> *だんご作り *どろんこ遊び ○ 浮かぶものを作る（いちごパック、牛乳パック、プリン、船作り、カップ、その他） 	
自然物	<p>ニガウリ ・ オクラ ・ ピーマン ・ 人参（スタンプ遊び） あさがお ・ 黄花コスモスで（色水遊び） 貝殻（海の雰囲気づくり）</p>	
環境	教師の援助配慮	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人の作品を認めていくことで描いたり、作ったりすることに意欲をもたせていく。また、展示したり、皆の前で紹介したりして、他の子にも刺激を与えるようにする。 ○ 気の合う友達同士で遊べるようになるが、物の取り合いや順番争いなどのささいな事から喧嘩することがあるが、できるだけ幼児同士で解決できるように見守る。 ○ 動植物の世話は、保育者と共に取り組む中でその成長を見守り、自然の不思議さに驚いたり、新しい発見をした幼児を認め共感する。 ○ 遊びを面白くするため、保育者が一人のイメージを他の幼児に広げていく遊びそのものの盛り上がりや、友達との遊びの楽しさ知らせていくようにする。
	場・物の配置	<ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな材料や用具を適切に使えるよう教材の種類、内容、置く場所などを配慮する。 ○ 水を使う遊びでは、水をむやみに使うのではなく適量を使えるように指導していく。 ○ 水遊びや砂遊びに必要な用具や材料などを豊富に用意し、片付けやすいように種類ごとに分けて表示しておく。

月	9月～10月	
期	3期	
子供の生活する姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 久しぶりにあえて喜びあったり、夏休み中の楽しいことを話し合う中で1学期に遊んだ遊びを思い出して楽しんでいる。 ○ 気の合う友達の中で、自分の考えがはっきり出せるようになり、一人一人が自信を持って行動するようになりその中で意見のぶつかり合いが多くなる。 ○ 運動会などの大きな行事では、共通の目的意識を持って協力しあったり、一人一人が責任を果たしたりして活発に取り組むようになる。 運動的な遊びに対しても自分なりの目標を持ち挑戦しながら、いろいろな運動遊びに積極的に取り組む姿が見られる。 	
発達の過程	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人の力を出し合って、新たな友達にかかわっていく時期 	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 使う材料、用具の幅をひろげる。 ○ イメージを持ち、いろいろな表現をする。 ○ 自分たちが世話している小動物などの表現をする。 	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 木工、用具の正しい扱い方を知る。 ○ 経験したこと、感じたことを自由に描いたり、作ったりする。 	
主な遊び	<ul style="list-style-type: none"> ○ 木工遊びをする（木片、くぎ、王冠、ジュース缶、かなづち、のこぎり、ガムテープ、油性マジック、毛糸、モールドなど） ○ くぎ打ちなど（ハッポースチロール、板） ○ 観察画をかく（絵の具、色えんぴつ、クレヨン、画用紙、コンテ） *園にいるウサギやカメ、にわとりをかく ○ 体験したことを絵にかく。 *夏休みの思い出 *いも掘り遠足 	
自然物	シンダマ（マラカス、くびかざり） ススキ（インディアンハット） ガジマルの葉っぱ（草笛）	
環境	教師の援助配慮	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人の考えが活かされるように援助したり、友達同士の共通理解ができるように仲立ちをしていく。 集団活動にスムーズに参加できない子に対しては個別的に声をかけていき、励ましながら活動に取り組むよう援助する。 ○ 木工遊びに必要な用具の取扱いを知らせ安全に気をつけて使用させる。 ○ 挑戦したこと、頑張ったことに対してみんなの前で認めて幼児の意欲を盛り上げるようにする。
	場・物の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家から持ってきた夏休み中の作品を展示し、まわりの子供達にも伝える。 ○ 友達と山、川、ダム、トンネルなどつなげてダイナミックに展開できるよう用具を配慮しておく。 ○ 工夫したり、試したりする事が十分できるよう素材、用具の数や場所など整えておく。

月	11月～12月	
期	4期	
子供の生活する姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループや学級全体で係わって遊びや仕事を進める中で、その子なりの力を発揮する姿が見られる。 ○ 自分たちの力で次々工夫して遊びを発展させられるようになり、かなり長い時間継続的に取り組むようになる。 ○ 一人一人の力が充実してきて、じっくりと活動や製作に取り組む。イメージが豊かになり、さまざまな工夫が見られ、たがいに影響を与え合う。 ○ ルールのある遊びの楽しさがわかるようになり、グループの友達と一緒に意欲的に取り組むようになる。 	
発達の過程	<ul style="list-style-type: none"> ○ みんなの力を合わせて友達を受け入れ、リーダーを中心にまとまろうとする時期。 ○ 友達と一緒に試したり、工夫したりして積極的に遊びを進める。 	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達と一緒に試したり、工夫したりして積極的に遊びを進める。 	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ イメージをふくらませて必要な物をつくる。 	
主な遊び	<ul style="list-style-type: none"> ○ 構成遊びをする <ul style="list-style-type: none"> *木の葉や実を使って *リース作り ○ アルバム表紙作り ○ 生活発表会に向けて製作 <ul style="list-style-type: none"> *紙芝居やペープサート作り *影絵遊び(OHP) 	
自然物	インパチェンス(ままごと、色水) どんぐり マツボックリ(リース、ミニツリー作り)	
環境	教師の援助配慮	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個々の力が試せる課題を与え、満足感や失敗感などを次の意欲へつなげる。 ○ 思い切り体を動かしたり、自分でやるんだという意欲が持てるようにし、友達同士励ましたりして、思いやる気持ちが育つように側面から見守る。 ○ 自然に触れる機会を多くし、その中で思い切り遊ばせ、生活の中から自然の素晴らしさを感じとれるよう配慮する。 ○ 園行事や社会的行事などを通して共通課題を見つけ、イメージを伝え合い、ふくらまし合って、友達とのつながりが、より深まっていくようにする。
	場・物の配置	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個々の表現のイメージをふくらませ、さらに遊びを楽しくしたりできる素材や音楽、絵本などを子供の興味をとらえて準備していく。また、じっくり遊びに取り組める場と時間を保障していく。



月	1月～2月～3月	
期	5期	
子供の生活する姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ お正月遊びやゲームを通し数や文字に関心を持ったり、生活の中で活用していく姿が見られる。 ○ もうすぐ1年生という自信と自覚が生活全体を通して見られる。 ○ 一人一人が、役割をもって行動できるようになったり、協力して遊んだり、仕事をしたりする楽しさが分かってくる。また、遊びの中で友達の力を認め合う姿も見られる ○ これまでの経験から自信が付き、自分達で話し合いながら、ある程度計画的に遊びを進めていく様子が見られる。 	
発達の過程	<ul style="list-style-type: none"> ○ 充実した園生活 ○ 自分の力を試しながら、友達同士で目的を持って幼稚園生活を展開し深めていく時期。 	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 共通の目的に向かって、友達と一緒に協力して描いたり、作ったりする。 ○ 遊びに必要なものを工夫して作り、それで遊ぶ。 	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目的に合わせて材料、用具を選んでつくる。 ○ 遊びに必要なものを作る。 	
主な遊び	<ul style="list-style-type: none"> ○ お正月遊びに必要なものを作る（厚紙、ビニール、ひご、プリンのカップ、割り箸、つまようじ、たこ糸、マジック、画用紙） <ul style="list-style-type: none"> * こま作り * たこ作り * カルタ作り * すごろく作り ○ 紙版画をする（画用紙、毛糸、布など） ○ 作品整理（表紙作り） ○ 部屋飾り 	
自然物	<ul style="list-style-type: none"> ○ サンニンの葉を使ってムーチ作り ○ おしろい花の種（白い粉で遊ぶ） <ul style="list-style-type: none"> ・ 葉っぱのお皿 ・ お化粧 ・ 葉屋さん 	
環境	教師の援助配慮	<ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれが自信を持って行動する様子が見られる。一人一人の遊びや発想をみんなのものとして広げていけるよう援助し、同じテーマに向かって遊びが進められ、その中でみんなが楽しくする方法を話し合ったり、気付かせたりする。 ○ 家庭で経験したお正月遊びをするのに学級全体やグループで友達とのつながりを深め、自分達でルールを話し合ったり、遊び方を伝え合っていく様子を大切に、時間を確保してあげる。 ○ 友達と楽しんで活動する時間を十分保障する。一人一人の遊びや発想を皆のものとして広げていけるよう援助し同じテーマに向かって進む学級として、つながりを深めていくようにする。
	場・物の配置	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動的な遊びなどがいつでもできるように遊具や道具を取り出しやすい場所に準備しておく。 ○ 知的な要求や興味を満足させるような遊具や教材を準備しておく。 ○ 必要に応じて文字や数を書き表して掲示しておく。その際、文字は楷書できちんと書くように配慮する。

V 保育実践

(1) 幼児の感動体験を通して感じる心と表現力の工夫

活動のきっかけ

- ・5月の中頃、Mさんが朝登園する時に小学校の花壇で「つまぐろひょうもん」の幼虫（とげとげくろむし）を見つける。

日時	子どもの活動	教師の援助
5/17	Mさんが、朝登園する時、小学校の花壇から、とげとげくろむしをみつけクラスに持ってくる。所持品の始末をすませてパンジーを摘みにいく。ケースに入れ観察している。	M子さんに観察ケースをだしてあげる。虫にあげようと松葉ぼたんの花を摘んできた子もいたので、その花ではないことに気付かせる。
5/20	Mさん、今日も一匹持ってくる。(家の近くで見つける。) 仲の良いK子さん達と一緒にパンジーを摘んできて世話をする。 「よく たべるよ」「もっと、とってこよう」	ケースの中のおれた茎や葉を、取りのぞいてきれいに掃除する子を認めほめる。 子どもたちの様子を見守る。
5/21	さなぎになったのをみてびっくりするじ子 「先生、へんなものがある。みて！」 「一匹いなくなっている。」 それをきいていたS君「これ、さなぎっていうんだよ」と教えている。	子どもの目のつきやすい場所に、  鑑「沖縄の自然と子ども」をおく。 「ほんとね、なんだろうね？」 「すごい。」S君よく知っているね。 虫めがねを置き、いつでも観察できるようにしておく。
5/26	さなぎからチョウに変身～ 「先生、ちょうちょになっている」 S君、  鑑を調べて「つまぐろひょうもんだよ」と近くの子に話をする。	「本当だね、何というチョウチョだろう」 「S君って虫博士みたいだね。」
5/27	今日も、もう一匹がチョウになる。 しばらく観察したあと解放して逃がしてあげる。 「バイバイ またきてね」	

表現の広がり

- ・4月から室内の環境として折紙、ぬりえコーナー、新聞紙、チラシであそぶ製作コーナーを作っておき、子供達はそれぞれ好きなコーナーで遊んでいる。
- ・5月になって、4月には見られなかった活動が広がり、新聞紙、チラシを工夫して作っている。教え合いながら作り遊びが広がる中で、活発になり楽しく遊んでいる様子がみられた。
- ・毎日のように紙を使っている遊びが続くので、黒のチリ袋に遊んだ後の紙くずを片づける。それで「ボクシング」「大玉ころがし」と遊んでいるうちに子ども達から「とげとげくろむし」を作ろうと声がかけて数人の子どもから虫作りが広まった。

5/ 28 黒のビニール袋をつないで（とげとげくろむし）をつくる。
ジャバラおりをしておて（とげ）にしておくつける。

いままで集めたビニール袋をどう使って遊びにできるかをみんなで、考える「ロボット」「飛行機」がいいという中で一番多かった「とげとげくろむし」それをみんなで作ってみよう決める。ガムテープ セロテープなど使いやすい場所に置いておく。

5/ 30 ジャバラおりをして「とげとげくろむし」にくっつけている。

ジャバラおりのまだできない友達に教え合う姿もみられる。

セロテープを準備し使い方をみて、うまくできない子には使い方を指導する。個人指導の必要な子には一緒に作り、やり方がわかるよう援助していく。



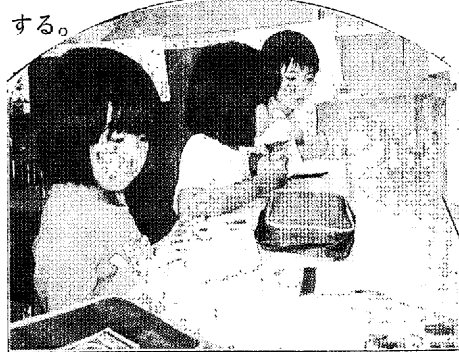
6/ 7 さなぎ作り
～ こよりを切って背中の部分にのり、テープでとめる。毎日、朝の好きな活動時間の中で何名かの子どもたちが、かかわって作っている。

夢中になって作っている事に時間をかけてあげる。子どもたちの発想、工夫がどんなものか見守る。



6 / 9 S君, K君きれいなチョウをみつけ虫かごに入れる。さっそく図鑑で調べ, イシガケチョウとわかり花を摘んで観察する。降園時逃がしてあげる。側でみていたT子「喜んでいるね」と言いながら嬉しそうに降園する。

とげとげくろむしを観察し, 製作している中で偶然出会った〔イシガケチョウ〕を, 通して生き物に対する思いやり, やさしさを感じる子ども達であってほしいと思う。



6 / 17 6月の誕生会の出し物についてみんなで考え合う。いろいろな中から「とげとげくろむし」をやりたいという意見が多くそれに決まる。



6 / 21 役作りは自分たちで決めそれぞれ自分のイメージした役を工夫しながら製作する。

子ども達が作りやすいように素材(ビニール, 画用紙), 用具(セロテープ, ホッチキス)など使いやすい場所に準備しておく。

友達と一緒に作りながら自分のイメージで工夫して作る楽しさを味わせたい。

6 / 22

6月生まれの誕生会

クラスの出し物「つまぐろひょうもんになったとげとげくろむし」
自分の役になりきって、楽しく表現遊びをする。

それぞれの役になりきって自分らしく表現している子ども達を認める。

①とげとげくろむしを見つけている所



「はっばのうしろにとげとげくろむしがいるよ。」

②幼虫がえさを食べたり遊んだりする様子



「ア、はっばがあった。おいしいな。」

③(さなぎになってじっとして動かなくなった様子)



「おなかもいっぱいになったしさなぎになろう。」

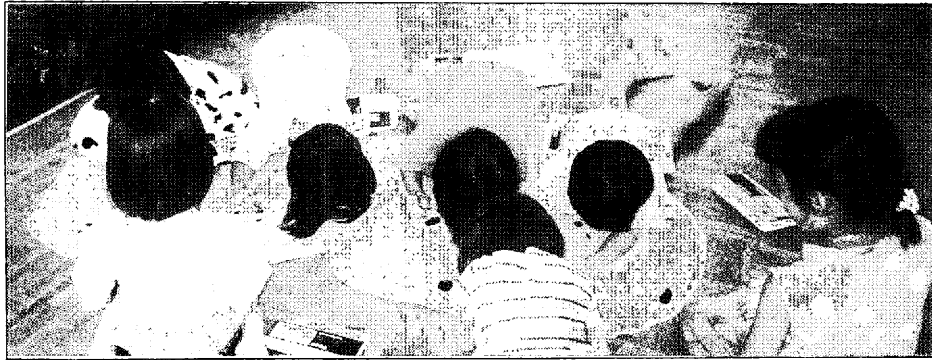
④(チョウになって甘い蜜をみつけに飛び回っている様子)



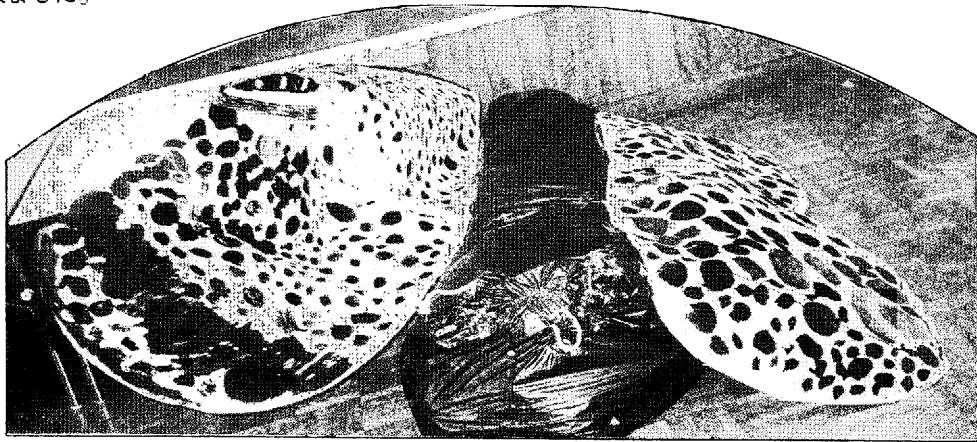
「ちょうちょになったぞー
花の蜜、のみにいこう。」

7月にはいって

長い間ぶらさがっている「さなぎ」を見て「もう、チョウにしよう」「チョウチョにしたい」との声に女兒が好きな教材（クレヨン、えのぐ、マジック）などで羽作りが始まる。

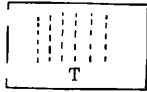
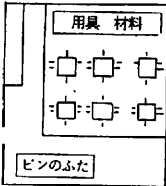




1つの羽を女兒がもう片方を男子が作り、7月中旬には大きな「つまぐろひょうもん」が出来ました。



考察

- ・一人の女兒が見つめてきた「とげとげくろむし」をみんなで育て観察していく事で思いやりが育ち友達との仲間関係も蜜になってきたと思われる。
- ・教師は幼児のつぶやき、発想を受けとめ、子ども達が必要とする素材を環境として置き、作りたい時にすぐ取り出せるように準備しておくことが大切であると感じた。
- ・「つまぐろひょうもん」「かばまだら」を成長させた喜びは大きな自信となり、その中で「死」についても真剣に考え生命の尊さをも学べたかと思う。
- ・誕生会の出し物にクラス全体で表現あそびに取り組んだことは、自分のイメージを表現し、演じて遊ぶ楽しさも味わえたと思う。
- ・身近な素材（新聞紙、画用紙、ちり袋）を使って子ども達の考えた事、感じた事が自分なりに表現できたことは表現する喜び、自信、意欲につながったと思う。

指 導 案			
平成7年 1月25日(木) もも組 担任 平良順子		<ul style="list-style-type: none"> 先週までの子どもの姿 お正月遊び(こま, すごろく, たこあげ, かるた)が多く, そのなかで, こままわしをする子もふえてきた。あまり回せない子, いろいろな技に挑戦する子もみられる。 活動のきっかけ ひもが回せなくても, いろいろな素材を使って, こまづくりが出来ることがわかり, 楽しめることを知らせたい。 	
在 籍 男子16名 女子16名 計32名			
主な活動 正月遊び ——— こまづくり ———			
ね ら い いろいろな材料をつかいこまづくりを楽しむ			
時間	環境構成	生活の流れ	教師の援助
8:15		<ul style="list-style-type: none"> 登園 朝のあいさつをする。 出席シールをはる。 持ち物の始末をする。 動植物の世話をする。 自分の鉢や花だんに水やりをする。 小動物の小屋を掃除しえさや水やりをする。 遊んだ物を片付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ひとりひとりとあいさつを交わし子どもの状態を知る グループの当番活動を見守り, 気づかない子には声かけをしていく。
8:40	集まり   材料 ・プリン, ラーメン アイスクリームなどの容器 ・木の実 ・ビンのふた 用具 ・千枚どうし ・かなづち ・くぎ ・わりばし・ひご	<ul style="list-style-type: none"> こまづくりについて話をきく。 自分の作りたいこまをイメージする。 いろいろな材料を使ってこまづくりをする。 必要な材料, 用具を準備する。 安全に気をつけて作る。 作ったこまで遊ぶ。 片づけをする。 友だちと協力して片付け。 こまを作って遊んだこと 楽しかったことを話合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊んだものをきちんと片付けできるよう促す。 いろいろな形や材料のこまがあることに気づかせ, 作ってみたいという気持ちを持たせる。  材料を必要に応じてとるよう声かけをする。 危険な千枚どうし, 竹くしなどの使い方に気をつけさせ配慮していく。 かなづちの使い方に気をつけさせ, 使い方を見守る。 自分なりのイメージを出し考えたり工夫したりしているところを認めてあげる。 むづかしそうにしていたり, うまく出来ない時は助言や手助けをしていく。
10:00			<ul style="list-style-type: none"> 使える材料, 用具は分類して片付けるよう声かけをする。 こまについて, 自分の思ったこと, 考えたことを話し友だちの話もきけるようにする。
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな材料を工夫し楽しんでこまづくりをしていたか。 		
反省と考察	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな素材のなかから, 自分で選び, 考えて工夫し作れたことは成功感や満足感も味わえたかと思う。又, 一人でいくつもの材料をえらんで次から次に積極的に取り組む姿もみられた。 かなづちとビンのふたをもって一生懸命にぶんぶんこまを作って遊ぶ姿は, どの子も充実し, 楽しく過ごせたと思う。 素材によっては, 仕上げにマジックで色をつけたり, つけなくてもいいとか, よく見て考えてその子なりに工夫して楽しくこまづくりをしていた。 教師のヒントも大事な援助であるが, 今日はずし多かったように思う。教えすぎののではなく, 作りながら気づかせていくことの大切さもわかった。 		

VI 研究のまとめと今後の課題

「感性豊かな子にするための援助の工夫」を研究テーマとして、身近な素材をつかった造形活動を中心として、理論、実践研究をしてきました。そこで研究のまとめと今後の課題を次の通りまとめました。

1 研究のまとめ

- (1) 多様な素材、用具にかかわりたくさんの感動体験をすることでイメージをふくらませ意欲的に工夫していくことで感性が豊かになると思われる。
- (2) 子どもの発達段階や遊びの様子をみながら、一緒に遊んだり、描いたり、作ったりしながら子どもの内面を理解し援助していくことの大切さを感じた。
- (3) 素材、材料に多くかかわらせるように、コーナーをつくり好きな時間に、好きな素材を使って遊べる環境を準備しておくことで、それらの特質に気づき、考え工夫して遊ぶ様子がみられた。
- (4) 教師の言葉かけ、共感、できない所を手伝う、励ますことなどは幼児に安定感を与え、それが自信となってどの子も素直に表現していくことがわかった。

2 今後の課題

- (1) 素材、材料、用具を使わせながら、その特質に気づき、作ったり、描いたりする楽しさや喜び、作ったもので遊ぶおもしろさを味わわせたいと思う。
- (2) 幼児期が感性の時代といわれていることを理解し、教師自信も感動する豊かな感性を持ち子ども達と信頼関係の中で一緒に生活しながら、必要なときは援助していきたい。
- (3) イメージしたこと、作ってみたいと思う活動への期待などを引き出せるようにする言葉かけを考えていきたい。又、一人一人のいいところが生かせるようなクラスづくりをしていきたいと思う。
- (4) 今回は造形活動を中心に研究してきたが今後は表現のなかのリズム表現、ことばの表現身体表現にも目をむけていきたいと思う。

《参考文献》

- | | | |
|--------------------|-------|--------|
| ・幼稚園教育指導書 増補版 | 文部省 | フレーベル館 |
| ・造形表現の指導 | 村内哲二 | 建帛社 |
| ・表現 III 造形的表現 | 岸井勇雄 | チャイルド社 |
| ・平成元年那覇市指定研究園研究報告書 | | 石嶺幼稚園 |
| ・保育実践用語辞典 | 西久保造礼 | ぎょうせい |